

じょうね幹也の願い…小牧市民の皆さまの幸せ



弁護士

みきや

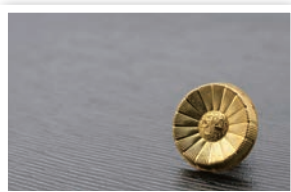
「じょうね幹也」物語



難病指定、多発性外骨腫…外骨腫とは、軟骨が骨の回りの膜を破って外に出て成長する、骨の病気。この病気は、軟骨が真っ直ぐに発育しない病気で、その結果、神経を刺激し痛みを伴い、身長が伸びない。5万人に1人の割合で発症する難病。根本的な治療法はなく、軟骨が伸びたら手術で骨を削るといふ処置しかない…成長期に限られた病。じょうね幹也(小牧市上末在住36才)は5歳の時、この病と診断された。ここから彼の**挑戦**の人生は始まった。

優しい爽やかな風が…

り、少しでも人の助けになる弁護士という仕事を目指した。大学院卒業後、一度目の挑戦で司法試験に合格。2010年から愛知総合法律事務所小牧事務所の所長として、小牧市民のために全力で戦った。じょうね幹也を知る人は言う。「彼ほど、やさしさや情熱、そして正義感を兼ね備えた弁護士を見たことがない。」「これほど仕事ので



奨学金を受けないが京都大学、京都大学法科大学院を卒業。彼は父と母の祈りに応えた。人の心の痛みに寄り添い、支えとな

きる弁護士はいない。」と。2011年に結婚、二人の娘(5歳・2歳)を授かった。小牧市を自らの使命を果たす地として選んだ。じょうね幹也は、多くの小牧市の人たちの悩みを聞き解決した。そしてもっと多くの小牧市民の悩みを解決したいと思うようになつていった。弁護士活動の中で今の小牧市政に疑問を抱いた。小牧市の多くの人々の支持を受け2019年2月の小牧市長選挙に**挑戦**することを決意した。「身長156センチの小さな体ですが、この五体を小牧の地になげうちます！」と、じょうね幹也は、語る。小牧市に優しい爽やかな風が吹き始めた。

心の痛みのわかる人に…

じょうね幹也の父と母は、5歳の幹也を抱きながら天を仰いで涙した。なぜが子が、なぜ幹也が…。苦しみ、悲しみに暮れる日々であった。そんな中、両親は深い決意に立った。難病を持つていようが、この子を立派な人間に育てよう。心優しい、人の心の痛みに寄り添える人間に育てよう！と。小学校に入学。整列をすると決まっても一番前。いじめにあつてもおかしくない。しかし、一度もいじめにあつたことはない。なぜか…父と母の祈りに応えるように彼は誰よりも心優しい子供に育つていった。そして彼は何事にも全力

で努力した。成績はいつも一番だった。中学、高校ではバスケットボールにも挑戦した。その間、10回の入院手術を繰り返した。想像を絶する激しい痛みにも耐えた。そして、乗り越えた。じょうね幹也は、高校3年の時の手術を最後に、病を完全に克服した。そして、健康で、丈夫な体を手に入れた。

